名古屋電気学園
クラブ活動だより

愛知工業大学
愛知工業大学名電高等学校
愛知工業大学名電中学校
愛知工業大学情報電子専門学校

平成 30 年秋季版
（平成30年11月19日）

第 100 回全国高等学校野球選手権記念大会

「超攻撃野球」で夏の甲子園 30 年ぶりの勝利！

第 100 回記念大会を見据え整備した後藤淳記念球場で鍛え抜いた「超攻撃野球」が、大きく開花しました。愛工大名電高校野球部は、第 100 回全国高等学校野球選手権記念大会の西愛知大会決勝（7 月 28 日・岡崎市民球場）で東邦高校を 9―4 で下し、5 年ぶり 12 回目の夏の甲子園出場を果たしました。

甲子園初戦を突破し、アルプス席へ駆けだす選手たち

甲子園初戦（8 月 11 日）は 2 回戦からの登場で、三重県の白山高校との東海対決となりました。2 本塁打を含む 15 安打を放ち 10 得点、室田祥吾―秋山凌祐両投手の完封リレーにより、10―0 の快勝。1988 年以来、遠ざかっていた夏の甲子園での勝利を 30 年ぶりにものにしました。世間の関心は初出場の白山高校に集まりがちでしたが、吹奏楽部とチアリーディング部がリードする大声援は試合の主導権が相手に渡ることを許さず、最後まで選手たちに力を送りました。

続く 3 回戦（8 月 16 日）では東兵庫代表の報徳学園と対戦。安井太規選手が 2 試合連続となる本塁打を放つも 2 ― 7 で敗れました。1981 年以来 37 年ぶりとなる夏の甲子園ベスト 8 以上の目標はかないませんでしたが、スタンドを紫の名電カラーに染めた大応援団から、堂々と戦った選手たちに惜しみない拍手が送られました。

歓喜に沸くアルプス席

後藤淳記念球場（春日井総合運動場内）は、それまでの練習球場を半年かけて全面改修し、6 月に逝去した学園総長・後藤淳先生の名を冠して 2016 年 5 月に完成しました。本塁から両翼へは 100 メートル、中堅へは 122 メートルと阪神甲子園球場をも上回る規模を持ち、この球場から甲子園を目指してほしいという総長先生の思いが込められています。

ノーシードから勝ち上がった西愛知大会では 7 試合中、1 点を争った接戦が 4 試合も。「3 回は壁があると選手たちには言ってきたが、まさかそれが 4 回とは」と倉野光生監督が驚くほど激闘の連続で、勝つたびにたくましさを増した選手たちには、まさに総長先生の思いを乗せたと思わせる力強さがありました。

大会を振り返って　　愛知工業大学名電高校野球部監督　倉野光生

第三試合の興奮が止まぬ甲子園球場。サイレンの合図で、試合前の７分間ノックが始まる。試合の序盤は、このノックの出来栄えで決まるともいえる。名電 12 回目の夏の甲子園だが、５年ぶり。選手にとって初出場と同じだ。緊張に包まれてボール回しが始まり、内野ゴロ、ダブルプレー、本塁送球。選手の動きは、すこぶる軽快だ。西愛知大会よりも自信に満ちている。今までで一番のシートノックだ。これは行けるぞ！　何かの力が後押ししてくれているようだ。

先制タイムリーを放つ西脇選手

プレーボール・・・カキーン！　打球は左中間にグングン伸びて長打コース。やられたか？　左翼手稲生がジャンプ一番、超ファインプレー！　初回のピンチを好守で切り抜けた。やはり選手の動きは万全だ。１回裏の攻撃。切り込み隊長柳本が狙いすましたセンター返しの二内安打で出塁。三進後、２番西脇があっさりと中前タイムリーで先制。初回からアルプス席のサクラサクラが満開とばかりの後押しだ。流れは名電。牛島、永井も安打でつなぎ３得点の先制攻撃。その後、相手の好守に阻まれ追加点に及ばず。白山高投手陣は、戦前予想を上回る球威で四球が無い。大量点を許してくれないぞ。

しかし５回、３連打を含む５安打で４点を追加。８回には試合を決める本塁打が２発飛び出した。名電打線は積極的に相手投手の得意球を狙い打ち、超攻撃野球を貫いた。先発投手の左腕室田は重責に耐え、立ち上がりから得点を許さず好投。救援秋山が５回から白山打線を封じ込め、三塁すら踏ませない完封リレー。４万人の大観衆が見守る中、カクテル光線に照らされ、名電健児は最高のパフォーマンスを発揮した。10 対０、圧勝だ。夏の甲子園 30 年ぶりの勝利の校歌は格別だ。あのイチロー選手ですら甲子園では苦しみ、勝利できなかったんだぞ。どれだけ困難なことなのか！　名電ナインは輝く球史を刻んだ。

夏の甲子園 30 年ぶりの勝利の校歌

継投で勝利をつかんだ秋山㊨・室田㊧投手

これだけのパワーが選手たちのどこに潜んでいたのか？　西愛知大会では、土壇場で劣勢を覆す厳しい戦いの連続だった。粘り強く最後まで諦めない野球。仲間を信じた絶対的なチームワーク。この勝利は野球の神様の賜物か、故後藤淳先生の思いゆえだろうか。さらに名電高応援団の思い、選手たちの思いも。

３年前の入部時、「君たちの３年生の夏は 100 回大会だ。記念すべき世紀の大会だ」と言い渡した。

５月には後藤淳記念球場が完成し、毎日の厳しい練習が始まった。ライバルチームとの闘いで屈辱的なコールド負けを喫した。その敗戦を転機に機動力と守りの野球から、圧倒的に打ち勝つ攻撃野球を目指した。目標を定め、自身に打ち克ち、選手たちは期待どおりに成長し、心身ともに逞しくなった。

甲子園出発前のひととき、激励に訪れた後藤泰之理事長と

100 回目の夏の大会を通じて「人の思いの強さ」がとてつもない大きな力となり結果となることを、あらためて体験した。人の思いが、選手が、学園が、学校が、ＯＢが、父母が、名電ファンが。すべてが一体となり一致し、成し遂げた業だった。

大会中、応援をいただき、誠にありがとうございました。皆様にはご協力いただき、大変お手数をお掛けしました。心から厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

高校卓球部がインターハイ学校対抗３連覇（優勝 17 回目）

３連覇を成し遂げた愛工大名電高校卓球部

愛工大名電高校卓球部が今夏のインターハイで３年連続 17 回目の全国制覇を成し遂げました。個人戦でもダブルスで田中佑汰選手（主将３年）・加山裕選手（２年）が名電として４連覇となる優勝を果たしたほか、田中選手はシングルスで準優勝しました。

名電中学卓球部も今夏の全国中学校卓球大会で個人戦優勝を飾っており、学園は10月19日、両卓球部に対して学園表彰を行い、快挙をお祝いしました。学校法人名古屋電気学園愛名会からもお祝いが贈られました。

インターハイ卓球競技は８月４～８日に豊田市のスカイホール豊田で開かれ、学校対抗決勝は鶴岡東（山形県）との対戦になりました。１番手の曽根翔選手（１年）は２ゲーム落とした後の猛攻で３ゲーム連取し、逆転勝利。続く２番の田中選手、３番ダブルスの田中・加山選手ともに３―０で完勝、ストレートで優勝をつかみました。

高校卓球部は春の選抜と合わせ、これで全国大会７連勝です。後藤淳総長先生の逝去を受けてチームは喪章をつけて大会に臨み、今枝一郎監督は「少しでも恩返しができて本当によかったと思います。地元開催ということもかなり前から意識していましたので、この優勝は格別にうれしいです」と安堵の表情を浮かべました。

逆転勝利した曽根翔選手

日本代表選手たちを擁した昨年のドリームチームとは異なる分、今年のチームはチャレンジャーの精神を忘れずに戦い抜きました。今枝監督は「まず私自身が重圧に押しつぶされないように意識しました。『勝てよ』と怖い顔をして選手たちにプレッシャーが伝染するのはよくないと考え、笑顔を忘れず、攻める姿勢を貫くことができました」と振り返ります。

個人戦でも、ダブルスで大会初のベスト８に４組、ベスト４に３組、決勝も同士討ちの活躍。シングルスでも優勝はできませんでしたがベスト８に３人と、名電の力を存分に見せつけました。

田中佑汰選手㊨・加山裕選手
は個人戦ダブルスでも頂点に

「田中キャプテンがチームをよくまとめてくれました。プレーだけでなく、私生活でも絶大の信頼をおける行動、活躍をしてくれました。シングルスでは決勝で敗れ３冠王にはなれませんでしたが、団体、ダブルスの２冠とシングルス準優勝という結果は大会のＭＶＰだったと思います」。主将の努力をこうねぎらった今枝監督は「今後も理事長先生をはじめ亡くなられた総長先生、学校、学園関係者の方々への感謝を忘れず、大学、中学卓球部と力を合わせ、世界を目指し、より一層努力してまいります」と、さらなる活躍を誓いました。

全中卓球個人戦１～３位、インターハイフェンシング男子エペ準優勝ほか、この夏の全国大会の中高生たち

個人戦を制した谷垣佑真選手
（写真提供：ニッタクニュース）

名電中学卓球部は広島県立総合体育館で８月 23 ～ 25 日に開かれた全国中学校卓球大会で、団体戦６連覇こそ逃したものの、個人戦で３選手がベスト４に入る活躍を見せました。

個人戦決勝は名電の谷垣佑真選手（３年）と濵田一輝選手（３年）の同士討ちとなり、フルゲームまでもつれる接戦の末に谷垣選手が初優勝、濵田選手が準優勝となりました。また準決勝で濵田選手と対戦した鈴木颯選手（２年）も３位に入賞しました。

このほかにも今夏のインターハイで、名電高生はフェンシング部の井上誉聡選手が男子エペ準優勝、バレーボール部がベスト８、水泳競技部の若林佑希子選手が公開競技の女子３㍍シンクロ飛び板飛び込み優勝などの成績を収めました。若林佑希子選手はジュニアオリンピックカップ夏季大会でも女子 3m 飛板飛込みで２位入賞しました。

全日本大学駅伝に２年連続 17 回目の出場

19 位でゴールした大学陸上競技部

大学陸上競技部は 11 月 4 日、真の大学日本一を決める第 50 回全日本大学駅伝 (熱田神宮～伊勢神宮) に２年連続 17 回目の出場を果たし、19 位の成績を収めました。1 ～ 8 区計 106.8km に、植松達也選手（経営学科３年）、小林宏輔選手（同２年）、児玉勘太選手（同３年）、鈴木高虎選手（同２年）、岡本優樹選手（同４年）、服部大暉選手（機械学科２年）、高橋創太郎選手(経営学科３年)、中村 正明選手(同２年)が出場。最終８区でたすきをつなげず繰り上げスタートとなりましたが、前回大会の 21 位から２つ順位を上げました。

大会を振り返って　　奥野佳宏監督

２年連続 17 回目の出場を６月の予選会で決め、11 月の本戦に向けて準備をスタートすることになった。例年実施している８月から９月にかけての高地トレーニングは、過去の経験やデータから高確率で記録向上につながっている。また本年度は第 50 回の記念大会であり、８区間 106.8㎞は同じだが区間レイアウトが変更されて後半区間がより長くなり、戦略性が増した。各大学の戦略分析が非常に難しくなり、本学にとっては長距離区間の選手育成に重要性が増すことが予測された。目標として母校のたすきをつなげることと、次年度東海地区出場枠確保のボーダーラインである 17 位を目指して区間配置を決定し、８名を選出した。

たすきをつなげるためには１秒を大切にし、一人一人があきらめない走りをすることが求められた。本学としては全日本インカレ経験者を前半区間に配置し、駅伝は走行位置で流れが決まってしまうこともあるので、先頭からの遅れをいかに短くするか、後半は長距離を得意とする選手を配置することで目標達成を目指した。

前半戦は予想通りレースが進み、東海地区、関西地区、中国地区等で競り合いながらレースを進め、順調に推移したが、やはり関東地区のトップ争いは後半にかけて熾烈となり、少しずつ先頭とのタイム差が開き始めた。７区スタート時点では約 60 秒の貯金があったが、７区は距離が大きく変更された区間の一つで、最終区の次に長い 17.6㎞は厳しさを極めた。やはり最終８区でたすきはつながらず繰り上げスタートとなり、総合順位 19 位でのゴールとなった。箱根駅伝花盛りの昨今、関東勢が圧倒的に強い現状ではあるが、本学でしかできない強化方法を実践し、いつかは関東勢の牙城を崩せるように挑戦し続けていきたい。

卒業生、選手の家族、大学関係者、競技部員、出身高校の先生、サポートいただいている方々が沿道等で応援に駆け付けていただき、多くの声援、ねぎらいの言葉をいただいたことに感謝申し上げます。

関西学生リーグ総合優勝の大学フェンシング部

関西学生フェンシングリーグ総合優勝

「第 68 回関西学生フェンシングリーグ戦」で、大学フェンシング部が２年ぶり５度目となる総合優勝を果たしました。

本学はフルーレ（4 月 21 ～ 22 日・大山崎体育館）で２位、サーブル(5 月 12 日～ 13 日･大阪中央体育館)で優勝し、途中経過で１位となっていましたが、5 月 26 日、豊橋市総合体育館でのエペ初日の試合で２敗スタートとなりました。この時点でポイント２位だったチームが初日全勝で１位に浮上し、本学は３位に落ちて総合優勝は絶望的な状況でした。そんな中で迎えた２日目（最終日）の試合で、選手のみならず部員全員の士気の高いプレー、応援によって強豪校に勝利、２位となり、総合優勝をつかみとることができました。

大会を振り返り、横井浩治監督は「『最後まであきらめるな』とはよく耳にする言葉ですが、まさに今回の勝因は部員全員が最後まであきらめなかったことを行動によって示した結果と思います。このようなチームの指導に携われることをコーチ共々感謝し、今後も学生と共に良い結果が報告できるよう練習に励みたいと考えております」と喜びを話しています。

吉村和弘選手（ITTF 提供）

吉村和弘選手がワールドツアー初優勝

5 月 27 日に行われた卓球の ITTF（国際卓球連盟）ワールドツアー・香港オープン男子シングルスの決勝で、大学卓球部の吉村和弘選手（経営学科 4 年）が韓国の趙勝敏選手を 4―1（11―5、5―11、11―8、11―3、11―7）で下し、ワールドツアー初優勝を飾りました。

予選から出場した吉村選手は、決勝トーナメント 2 回戦でドイツのフィルス選手（世界ランキング 21 位）、準々決勝で韓国の李尚洙選手（同 8 位）ら格上の選手たちを次々と撃破しました。決勝で対戦した趙勝敏選手（同 54 位）は、兄で本学卒業生の吉村真晴選手（名古屋ダイハツ）を準々決勝で下した相手で、兄の雪辱も果たしての初優勝となりました。

吉村選手は、柔らかなフォームから繰り出すバックハンドの鋭さが、もともと世界トップクラスと言われていました。鬼頭明大学卓球部総監督は「今大会を良いコンディションで迎えたが、経験を積む中で悪い時なり、良い時なりの戦い方を覚えたようだ」と成長を評価しています。

設置校の選手たちが ITTF の大会で相次いで優勝

このほかにも設置校の卓球選手たちが以下の ITTF の大会で相次いで優勝を飾っています。

【5 月】チャレンジタイオープン･アンダー 21　田中佑汰（高校）【7 月】ジュニアサーキット中国オープン・ジュニア　曽根翔（高校）▼同・カデット　篠塚大登（中学）【8 月】ジュニアサーキット香港大会・ダブルス　篠塚大登／濵田一輝（中学）▼ワールドツアーチェコオープン・アンダー 21　木造勇人（大学）【10 月】ワールドカデットチャレンジ・団体　篠塚大登・濵田一輝・谷垣佑真（中学）▼同・ダブルス　谷垣佑真＝木下グループの松島輝空選手とペア【11 月】▼チャレンジベラルーシオープン・ダブルス　曽根翔／田中佑汰

木造勇人選手（ITTF 提供）

インカレ卓球　男子は 3 位

第 88 回全日本大学総合卓球選手権大会団体の部は 7 月 12 ～ 15 日、東京都墨田区総合体育館で開かれ、大学男子卓球部は 3 位入賞、大学女子卓球部は 6 位入賞の成績でした。男子は残念ながら 3 年ぶり 7 回目となる優勝はかないませんでした。女子は 5 年連続でベスト 8 の成績です。

日本卓球リーグ　年間総合 5 位

大学男子卓球部は平成 30 年度日本卓球リーグで年間総合 5 位の成績を収めました。

前期リーグ高知大会（5 月 30 日～ 6 月 3 日・高知県立県民体育館）は 4 勝 3 敗の成績を収めて 5 位となりました。高知大会に先立って 5 月 29 日、八草キャンパス小体育館卓球場でリコーを迎えて同リーグ戦のホームマッチが行われました。リコーは今大会優勝の強豪で、全ての試合がフルセットにもつれる接戦となりましたが、最後は我慢強く戦った本学の選手たちが３－０で勝利しました。

後期リーグ酒田大会(11 月 7 ～ 11 日･酒田市国体記念体育館)は 2 勝 5 敗の成績で 6 位となりました。酒田大会に先立って 10 月 20 日、八草キャンパス小体育館卓球場に東京アートを迎えて行われたホームマッチは、全試合フルセットで 5 番まで戦う大激戦となりました。最終戦は松山祐季選手と今春に大学を卒業して東京アートに進んだ上江洲光志選手の後輩先輩対決となり､惜しくも勝利を逃しました。

【5 月 29 日のホームマッチ】○愛知工業大学３－０リコー
○髙見真己（経営学科 1 年）３－２有延大夢
○吉村和弘（経営学科 4 年）３－２山本勝也
○吉村和弘／木造勇人（経営学科 1 年）２－１有延大夢／鹿屋良平
【10 月 20 日のホームマッチ】愛知工業大学２－３東京アート○
○宮本春樹（経営学科 1 年）３－２大矢英俊
木造勇人２－３高木和卓○
○松山祐季（経営学科 2 年）／髙見真己２－１高木和卓／上江洲光志
髙見真己２－３村松雄斗○
松山祐季２－３上江洲光志○

髙見真己選手㊨・松山祐季選手のペア

14 季ぶりの 1 部復帰を決めた大学硬式野球部

大学野球部が 14 季ぶり 1 部復帰

大学硬式野球部は本年度の愛知大学野球秋季リーグ戦で 2 部 B リーグを 7 勝 3 敗の 1 位で勝ち上がり、2 部 1 位プレーオフで A リーグ 1 位の愛知東邦大学を 2 連勝で下して 4 年ぶりに 2 部優勝を飾りました。強力打線を牽引した徳浪優斗選手 (4 年) が 2 部最優秀選手の表彰を受けました。続く 1 部･2 部入替戦（11 月 3 ～ 5 日・パロマ瑞穂球場ほか）で 1 部 6 位の愛知大を 2 勝 1 敗で下し、2012 年春に 2 部に降格して以来、14 季ぶりとなる 1 部復帰を果たしました。

1 部昇格を懸けた入替戦第 3 戦は、愛知大に 5 点先行される苦しい展開に。本学は土居竜丸選手 (4 年) の適時打などで点を返し、1 点差に詰め寄って最終回の攻防を迎えました。九回裏、1 死一、三塁から羽谷勝太選手 (4 年) の左犠飛で同点に追いつき、なお 2 死一、二塁の好機に土居選手が右前適時打を放って劇的なサヨナラ勝ちを収めました。

入替戦第 3 戦、九回裏に土居の右前適時打で二走徳浪が生還し、劇的なサヨナラ勝ちを果たす

春季リーグ戦 4 位という不本意な結果を就任 2 年目の平井光親監督と選手たちは真摯に受け止め、悔しさをバネに秋季リーグ戦で雪辱を晴らす決意をしました。朝 6 時からの早朝練習などで、力強いスイングと課題の一つであるチーム打撃の強化に徹底して取り組みました。

平井監督は「学生には『練習は嘘をつかない』と、日々の積み重ねが重要であることを理解してもらうようコーチ・スタッフと指導しました。学生も徐々に理解し、チーム練習以外でも自主練習を行うなど個人で努力するようになっていきました」と学生たちの頑張りを称えます。

学園総長・後藤淳先生の 6 月のご逝去を受け、秋季リーグ戦には全員が喪章をつけて挑みました。チームとしての団結力も増した結果の 1 部リーグ復帰を受けて、平井監督は「今年は 4 年生中心のチームでしたので、3 年生以下の在学生でこれまで以上に精進し、新たな目標を全日本大学野球選手権出場と掲げて頑張っていきます」と、さらなる活躍を誓っています。

新人戦でも 10 年ぶりに優勝飾る

大学硬式野球部は 6 月 17 日､愛知大学野球連盟 2018 年度新人戦の決勝で星城大学を 9 － 4 で下し、2008 年以来 10 年ぶりとなる新人戦優勝を飾りました。トーナメントの新人戦で、本学は 5 試合中 4 試合が逆転勝ちでした｡リードオフマンとして活躍した岡田虎二郎選手が最優秀選手賞を受賞しました。

ソーラーカーレース鈴鹿で念願の表彰台に

大学生たちによるソーラーカープロジェクトが今夏も「ソーラーカーレース鈴鹿」に参戦し、総合 4 位・ドリームクラス 3 位の好成績を収めて念願の表彰台に上がりました。

ソーラーカーレース鈴鹿は 5 時間に及ぶ耐久レースで、今夏も 8 月 3 ～ 4 日に鈴鹿サーキット国際レーシングコースで開催されました｡本学チームは昨年の大会で車体が破損した反省から、強度の高い部品への変更、軽量化、新しい制御装置の導入などマシンのスペックアップを図り、さらに試走会にも参加して入念な準備で臨みました。

鈴鹿サーキット周辺の過去の天候から発電量を予測してレース計画を立て、横井俊哉さん（電気学科 4 年)､山本壮志さん（同 2 年)､川原佑斗さん（機械学科 2 年）の 3 人がドライバーとして乗車しました。ピットでは常時 8 人ほどがマシンから送られてくるさまざまなデータやライバルチームのラップタイムをモニターし､状況に応じてドライバーへ指示を飛ばしました。また､パンクなどの事態に備えクルーが常に待機しました。3 日に行われたフリー走行で昨年より 40 秒速いタイムを記録し、決勝では 7 位からのスタートとなりました。4 日に行われた決勝レースでは、序盤から激しい 4 位争いとなり、自分たちのペースを崩さず上位を維持しました。レース中盤、暑さにより多くのチームにトラブルが発生する中、堅実な走りで総合 3 位まで上昇しましたが、終盤にペースが下がって総合 4 位・クラス 3 位でのゴールとなりました。これは 2008 年に参戦を始めて以来、最高の成績です。

全日本吹奏楽コンクールで銀賞に輝く

来年１月６日の定期演奏会（センチュリーホール）で感動再び

全日本で銀賞に輝いた愛知工業大学名電高校吹奏楽部

高校吹奏楽部が、10 月 21 日に名古屋国際会議場で開かれた第 66 回全日本吹奏楽コンクールで銀賞に輝きました。東海支部代表として高校部門全国最多 41 回目の出場を果たし、自由曲には吹奏楽のための交響曲「ワインダーク・シー」（ジョン・マッキー作曲）を選びました。ギリシャ神話の英雄オデュッセウスをテーマにした難曲を顧問の伊藤宏樹教諭の指揮によりダイナミックに奏で、演奏が終わると同時に大喝采が起こる名演となりました。

このほか、同部は 11 月 18 日に大阪城ホールで開催された全日本マーチングコンテストに東海支部代表として出場し、銀賞を獲得しました。10 月 7 日に金沢歌劇座で開催された中部日本吹奏楽コンクールでも金賞・文部科学大臣賞（1 位）に輝きました。

一方、同部のサマーコンサートは 7 月 16 日に日進市民会館大ホール、19 日に名古屋国際会議場センチュリーホールで、それぞれ開かれました。両会場ともプログラムは 3 部構成で、180 人の部員が織りなす華やかな演奏が会場の吹奏楽ファンを魅了しました。

伊藤宏樹教諭らの指揮により、「歌劇『アイーダ』より『凱旋行進曲』」や、3 月末のオーストリア演奏旅行でも披露した「ゴールデン・ジュビレーション」（同部第 50 回定期演奏会記念委嘱作品）、などを次々と演奏。第 3 部の曲目では恒例となった 1 年生部員たちの楽しい演出や、スタンドの応援風景を再現した「名電野球応援メドレー」も登場し、満席の会場を沸かせました。

愛知工業大学管弦楽団第 21 回定期演奏会

愛知工業大学管弦楽団の第 21 回定期演奏会が 10 月 14 日、名古屋市青少年文化センターアートピアホールで開かれました。

東海地方を中心に多くの演奏団体の指導に当たる中村暢宏氏を、今年も指揮者に迎えました。プログラムはブラームスの「大学祝典序曲ハ短調作品 80」で開幕し、続いてブラームスが才能を見出したドヴォルザークの作品「チェコ組曲ニ長調作品 39」「交響曲第 8 番ト長調作品 88」を演奏しました。コンサートマスターを務める中村真大さん（機械学科 4 年）ら学生たちの生気に満ちた演奏に、客席の本学関係者や音楽ファンから盛んな拍手が送られました。

動的種目全完走のフォーミュラ研究会

全日本学生フォーミュラ大会で動的種目を全完走

９月４～８日に静岡県小笠山総合運動公園 (エコパ) で開催された「第 16 回全日本学生フォーミュラ大会」で、本学フォーミュラ研究会が 2009 年に参戦を始めて以来初となる動的種目全完走を成し遂げました。学生の自作フォーミュラカーの競技会である同大会は、一斉に走って争うレーススタイルでなく、1 台ずつの静的審査（コスト、プレゼンテーション、デザイン）と動的審査の合計得点で順位を決めます。動的審査では、アクセラレーション（0 ～ 75 メートル加速）、スキッドパッド（コーナリング性能）、オートクロス（800 メートルコース 2 周走行）、エンデュランス（周回路約 20 キロ走行）の各種目でタイムを競い、併せて燃料消費量などの効率を評価します。

今大会では出走 92 校中、動的種目を全完走できたチームは半数以下。この難関を突破した本学フォーミュラ研究会は、2009 年以来自己最高得点を記録しました。大会のレベルが上がる中、総合順位でも過去最高だった 2015 年の 24 位に迫る 28 位の成績を収め、ジャンプアップ賞 1 位を獲得しました。

ものづくりに挑戦する学生たちを支援する後藤泰之学長の学長投資（学生チャレンジプロジェクト特別支援金）として、本年度はフォーミュラ研究会に 300 万円が贈られました。贈呈式は 8 月 7 日、八草キャンパス本部棟で行われ、後藤学長がリーダーの太田優也君に目録を手渡しました。太田君は「車両の制作とチームのマネジメントを確立し、最終的に全国 1 位を目指せる車、チームを作っていくことが目標です」と力強く抱負を述べました。

後藤杯卓球　男子シングルスは松山選手がＶ

１位の松山選手と
３位の吉村、髙見選手ら

第 47 回後藤杯卓球選手権大会（名古屋オープン）は９月 15 ～ 17 日の３日間、愛知県体育館で開かれました。今回は海外勢の台北チームを含む 617 人の選手たちが参加し、ピンポン外交に尽力した後藤鉀二先生、今年６月に逝去された学園総長・後藤淳先生の遺影が並んで見守る下で熱戦を繰り広げました。

学園設置校の選手たちは、男子シングルスで愛知工業大学の松山祐季選手が優勝を飾り、吉村和弘選手と髙見真己選手が３位に入賞しました。男子ジュニアでも名電高校の小林広夢選手が優勝し、中村光人選手が３位に入賞しました。

また、男子ダブルスでも愛知工業大学の松山選手・髙見選手が優勝し、松下大星選手・宮本春樹選手と和田航大選手・神京夏選手が３位に入賞。愛知工業大学の女子選手もシングルスで中畑夏海選手が３位入賞、ダブルスで松本静香選手・上田真実選手が３位入賞の成績を収めました。

閉会式で後藤泰之・愛知県卓球協会長が優勝した選手らに後藤杯などを手渡し「この大会で得た経験を次の試合にも生かしてほしい」と激励しました。

福井国体　卓球少年男子３連覇　／　全日本卓球選手権大会（カデットの部）　ダブルス優勝

第 73 回国民体育大会卓球競技（9 月 29 日～ 10 月３日・福井県敦賀市総合運動公園体育館）少年男子で、名電高単独チームの愛知県（田中佑汰、加山裕、曽根翔）が決勝で野田学園高単独チームの山口県をストレートで下し、愛知県の３年連続 14 回目となる優勝を決めました。

また、11 月２～４日に仙台市体育館で開かれた全日本卓球選手権大会（カデットの部）で、名電中の鈴木颯選手・中村煌和選手がダブルス優勝の成績を収めました。

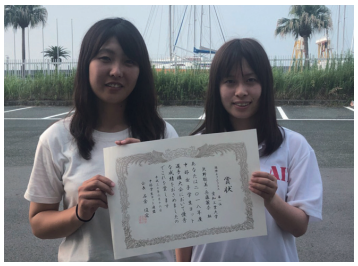
ゴルフ部が２年連続で春・秋季全国大会に出場

全国大会出場の大学ゴルフ部

大学ゴルフ部は９月 11、12 日、津カントリー倶楽部（津市）で開かれた「中部学生ゴルフ秋季１部･2 部大学対抗戦」で１部校３位の成績を収め、全国大会「第 62 回信夫杯日本学生ゴルフ対抗戦」（10 月 25、26 日・千葉カントリークラブ梅郷コース）への出場を決めました。春と秋に開催される全国大会へ、本学ゴルフ部は２年連続の出場となりました。

今季のゴルフ部は個人戦で苦戦が続き、全国出場枠の３位入賞を目標に危機感をもって地区対抗戦に臨みました。２日間競技の本大会で初日２位、総合３位の成績を収めることができた背景には、個人３位のエース河合和眞選手（経営学科４年）、６位の小田将吾選手（同３年）、12 位の佐野琢朗選手（同）の活躍があります。しかしながら出場５人のうち上位４人の合計ストローク数で争う団体戦では総合力が求められ、３選手の成績は上位校と遜色が無いものの、優勝争いを演じるには至りませんでした。

ヨット部が初の全日本女子インカレ出場



（左から）兵藤・矢野両選手

大学ヨット部の矢野聡美（応用化学科１年）・兵藤麗奈（経営学科３年）両選手が 2018 年度中部学生女子ヨット選手権大会（６月１６日・蒲郡市海陽ヨットハーバー）で優勝し、1962 年の創部以来初となる全日本女子インカレ出場を決めました。さらにヨット部は、６月２３～２４日に同ヨットハーバーで開かれた中部学生ヨット個人選手権大会の 470 クラスでも、石黒武志（電気学科４年）／矢ケ崎新（土木工学科２年）選手が１位、末永征覇（経営学科４年）／兵藤麗奈選手が２位の成績を収め、全日本出場を決めました。

洋弓部が４年ぶりに全国大会出場

大学洋弓部は「2018 年度 東海学生アーチェリー連盟　王座出場校決定戦」（4 月 21 ～ 22 日・愛知学院大学第３グラウンド）で準優勝の成績を収め、全国大会「第 57 回 全日本学生アーチェリー 男子王座決定戦」（6 月 16 ～ 17 日･静岡県つま恋リゾート）に４年ぶりの出場を決めました。

大学４クラブ、中高 12 クラブをクラブ表彰

学園は７～ 11 月にかけ、全国大会に出場の大学４クラブ、中高 12 クラブに対してクラブ表彰を行いました。後藤泰之理事長が各部の顧問、選手らを激励し、愛名会、高校 PTA、高校同窓会からもお祝いが贈られました。

7 月 20 日の表彰

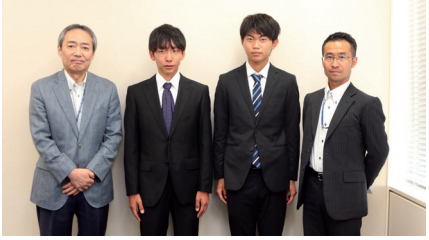
表彰されたクラブと出場大会

7 月 23 日の表彰

7 月 30 日の表彰

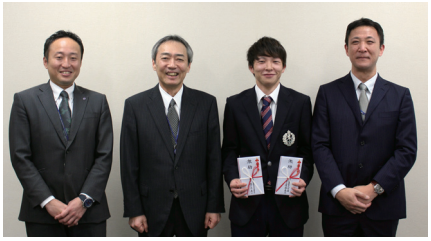
高校野球部激励

▼大学洋弓部
（第 57 回全国学生アーチェリー男子王座決定戦）
▼大学フェンシング部
（第 68 回全日本学生フェンシング王座決定戦、全日本学生フェンシング選手権大会）
▼大学陸上競技部（天皇賜盃第 87 回日本学生陸上競技対校選手権大会兼第 30 回ユニバーシアード競技大会日本代表選手選考、秩父宮賜杯全日本大学駅伝対校選手権大会）
▼大学ゴルフ部（第 55 回全国大学ゴルフ対抗戦、第 62 回信夫杯日本学生ゴルフ対抗戦）
▼高校野球部（第 100 回全国高等学校野球選手権記念大会）
▼高校卓球部、フェンシング部、バレーボール部、相撲部、ウエイトリフティング部、水泳競技部（全国高校総体）
▼高校水泳競技部（平成 30 年度全国 JOC ジュニアオリンピック夏季水泳競技大会）
▼高校ボウリング部（第 42 回全日本高校選手権大会）
▼高校チアリーディング部（JAPAN CUP 2018 チアリーディング日本選手権大会）
▼高校将棋部囲碁班（第 42 回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会）
▼高校競技かるた部（第 42 回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門）
▼中学フェンシング部（第４回全国中学生フェンシング選手権大会）



9 月 11 日の表彰

10 月 16 日の表彰



11 月 12 日の表彰

卒業生の活躍

名電出身の親方力士を励ます会

「名電出身の親方・力士を励ます会」が７月 15 日夜、若松親方（元朝乃若）、山分親方（元武雄山）と三段目力士として名古屋場所に臨んだ駒木龍（木瀬部屋）を迎え、名古屋市内のホテルで開かれました。

「励ます会」は毎年の名古屋場所中日に開かれています。若松、山分両親方がインターハイに出場する高校相撲部の後輩に激励賞を贈った後、駒木龍とともに近況を報告しました＝写真。名古屋場所担当の若松親方は「三横綱一大関休場の中、長野出身の御嶽海が名古屋場所を盛り上げてくれています。このままぜひ優勝して来場所に大関獲りを目指してもらいたい」、九州場所担当の山分親方は「連日札止めの名古屋場所に九州場所もあやかりたい。少しでもお客さんに喜んでもらえるような工夫を考えます」と述べました。４戦全勝の好成績で名古屋場所を折り返した駒木龍は「ここまで４連勝して皆さんに会えたことをとてもうれしく思います。残り３番も全力で頑張っていきますので応援をよろしくお願いします」と力強く呼び掛けました。

大学生の主な対外競技成績

【卓球部】
▼第 71 回ひろしまオープン (3/31 ～ 4/1) 男子団体準優勝
▼ ITTF チャレンジスペインオープン (3/28 ～ 4/1)　男子シングルスベスト 8 松山祐季
▼東海学生卓球新人大会 (5/6 ～ 7)　男子シングルス優勝髙見真己、男子ダブルス優勝髙見真己 / 宮本春樹
▼東海学生卓球春季リーグ戦 (5/11 ～ 13)　男子 1 部リーグ優勝、女子 1 部リーグ優勝
▼ ITTF ワールドツアー香港オープン (5/22 ～ 27)　男子シングルス優勝吉村和弘
▼前期日本卓球リーグ高知大会 (5/30 ～ 6/3)　男子 1 部リーグ 5 位
▼東海学生卓球選手権 (6/23 ～ 24)　男子シングルス優勝吉村和弘、男子ダブルス優勝吉村和弘 / 木造勇人、女子ダブルス優勝松本静香 / 上田真実
▼第 88 回全日本大学総合卓球選手権 (7/12 ～ 15)　男子 3 位、女子 6 位
▼ ITTF ワールドツアーチェコオープン (8/21 ～ 26)　男子アンダー 21 シングルス優勝木造勇人
▼東海学生卓球秋季リーグ戦 (9/21 ～ 23)　男子 1 部リーグ優勝、女子 1 部リーグ優勝
【陸上競技部】
▼東海学生陸上春季大会 (4/8)　3000m1 位小林宏輔、3000mSC 1 位植松達也
▼第 84 回東海学生陸上競技対校選手権 (5/11 ～ 13)　1500m1 位小林宏輔、5000m1 位児玉勘太、10000m1 位鈴木高虎、3000mSC1 位植松達也
▼秩父宮賜杯第 50 回全日本大学駅伝対校選手権記念大会東海地区選考会 (6/10)　1 位
【ゴルフ部】
▼中部学生ゴルフ春季 1・2 部大学対抗戦 (5/15 ～ 16)　1 部校 3 位
▼中部学生ゴルフ秋季 1・2 部大学対抗戦 (9/11 ～ 12)　1 部校 3 位
【洋弓部】
▼東海学生アーチェリー連盟王座出場校決定戦 (4/21 ～ 22)　団体男子準優勝
【バドミントン部】
▼第 127 回東海大学バドミントン選手権 (4/2 ～ 5)　団体男子 2 部 3 位 2 部残留
▼第 128 回東海大学バドミントン選手権 (9/10 ～ 13)　団体男子 2 部リーグ 1 部昇格
【ヨット部】
▼春季中部学生ヨット選手権 (3/24 ～ 25)　470 クラス 2 位
▼中部学生女子ヨット選手権 (6/16)　優勝矢野聡美 / 兵藤麗奈
▼中部学生ヨット個人選手権 (6/23 ～ 24)　470 クラス 1 位石黒武志 / 矢ケ崎新、2 位末永征覇 / 兵藤麗奈
【フェンシング部】
▼第 68 回関西学生フェンシングリーグ戦　総合優勝＝フルーレの部 (4/21 ～ 22)　2 位、サーブルの部 (5/12 ～ 13)　優勝、エペの部 (5/26 ～ 27)　2 位
【レーシングカート部】
▼ 石野メガ 3 時間耐久春耐 (4/ ～ 22)　団体 GT-MZ クラス優勝
▼第 23 回 L.I.K. 全国学生カート選手権 (9/1 ～ 2)　大学対抗部門準優勝
【自動車部】
▼全中部学生ジムカーナ選手権 (5/27)　団体 2 位
【硬式野球部】
▼愛知大学野球連盟新人戦 (6/9 ～ 17)　優勝
▼愛知大学野球秋季 2 部 B リーグ (9/2 ～ 10/13)　1 位、2 部 1 位プレーオフ (10/20 ～ 21)　優勝、1 部・2 部入替戦（11 月 3 ～ 5 日）1 部リーグ昇格
【柔道部】
▼愛知県学生柔道新人優勝大会 (10/8)　団体 5 人制の部準優勝
【バレーボール部】
▼第 146 回東海大学男女バレーボールリーグ戦秋季大会 (9/29 ～ 10/27)　男子 5 部リーグ優勝

発行　学校法人名古屋電気学園愛名会